

多自然川づくり取組事例

タイトル：鳥屋野潟の豊かな自然環境を保全した湖岸堤整備の実施		
水系/河川名：信濃川水系/鳥屋野潟	河川分類：都市河川	
河川の流域面積：99.8km ²	整備計画流量：360m ³ /s	セグメント：3
事業：河川改修	事業開始年度：平成24年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、水際域の保全・再生・創出		
工法(主な)：築堤、掘削(河床)、河道法線修正、移植、植樹		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、施工管理、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

新潟県新潟市の中心市街地に隣接する一級河川鳥屋野潟は、豊かな自然環境を有する都市部の貴重な水辺である。このため、環境保全、利活用の観点で、県民の関心は非常に高く、様々な要望や意見が寄せられている。新潟県では、学識者や関係者から構成される「鳥屋野潟整備実施計画検討委員会」を設立し、広く県民の意見を聴取したうえで、鳥屋野潟整備実施計画を平成25年に策定した。その後、自然環境に十分配慮した湖岸堤整備を行うため、環境調査を実施し、鳥屋野潟周辺の生息・生育状況を把握するとともに、調査により確認された重要種等に対して、湖岸堤整備による環境影響を予測し、環境保全対策を検討した。令和5年度からはこの環境保全対策を講じながら事業を進めている。

<目標>

鳥屋野潟の豊かな自然環境を保全しながら、湖岸堤整備を行い治水安全度を向上させる。また、鳥屋野潟が、住民にとって憩いの場であり続けるように、利便性・快適性を確保する。



取組内容・対策例(1/2)

令和5年度から工事に着手した長潟地区において実際に行われている取組内容について紹介する。

<シロネの移植>

当該地区においては、環境調査の結果シソ科植物のシロネが確認された。シロネ自体は希少種ではないが、レッドリストにおいて準絶滅危惧種に指定されているオオルリハムシの食草であるため、重要種として扱い、改変区域内のシロネは改変区域外の適所へ移植を行った。また、移植先の県立鳥屋野潟公園において、公園利用者にシロネ及び移植を行った事業の趣旨を紹介するため看板を設置した。



移植作業の様子(掘り取り)



移植作業の様子(掘り取り後のシロネ)



紹介看板の設置(1/2)



オオルリハムシ
NT(純絶滅危惧種)



移植作業の様子(植え付け)



移植作業の様子(養生)



紹介看板の設置(2/2)

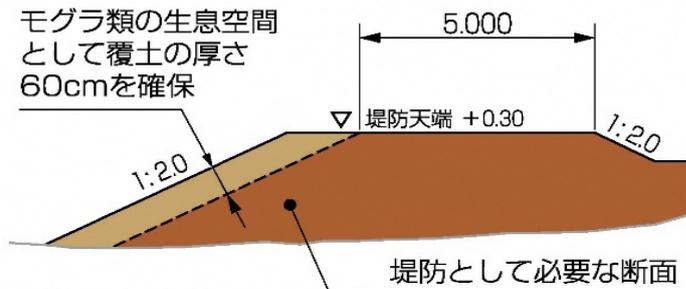
取組内容・対策例(2/2)

＜エチゴモグラを保全する覆土＞

鳥屋野潟では越後平野の一部地域にのみ生息するエチゴモグラが確認されている。エチゴモグラは新潟県固有亜種の動物であり、レッドリストにおいて絶滅危惧種に指定されている。モグラのすみかや行動場所は深さ40cm～60cmまでといわれていることから、湖岸堤整備の際は堤防として必要な断面に加え60cmの覆土厚を確保することとしている。この覆土には、現場で剥いだ表土を利用することで、外来植物の繁殖を防止する。また、工事は工区を少しずつ区切り、片押し施工をすることで、モグラが工事区域から脱出できるようにしている。



エチゴモグラ
EN (絶滅危惧IB類・絶滅危惧I類)



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜シロネのモニタリング＞

令和6年度に移植したシロネの生育状況のモニタリングを行った。元々の現地の植生に紛れて生育している状況が確認できた。



移植先(観察池)移植前



移植先(観察池)移植後
R6.10撮影



移植先(観察池)移植後
R7.7撮影



＜今後の対応方針＞

引き続き環境保全対策を講じながら、湖岸堤整備を進めていく。実施した対策結果はモニタリングを行い、必要に応じて対策の再検討や他工区への反映を行い、より良い環境保全に配慮した湖岸堤整備へとつなげていく。

また、今後は側帯への桜の再生にも取り組む予定としている。元々鳥屋野潟の沿線には約500株の桜が植えられており、桜並木が鳥屋野潟らしい景観を作っている。診断の結果、桜は寿命を迎える株が多く、腐食や空洞化が進行しており、移植に耐えられるものは数少ないことが判明している。そこで、湖岸堤整備等に際し支障となる桜は伐採し、新たに側帯へ植樹を行うことで鳥屋野潟の景観を保全することとしている。樹種や植樹の配置計画など、関係団体や地域住民と意見交換をしながら詳細について検討をしていく。



湖岸堤整備後のイメージ(春)
(側帯には桜を再生)

備考